日中における稲作のコストと利益の比較分析（要旨）

新潟県立大学北東アジア研究所准教授　**董琪**
北京理工大学経済学院准教授　**王懐豫***
*責任著者

本研究は、日本と中国における米の生産のコスト・利益の動態を調査し、特に農場の規模、コスト構造、生産性に焦点を当てている。両国のデータを利用し、農家を土地保有面積に基づいて二つのカテゴリに分類する。すなわち、6.67ヘクタール未満を耕作する農家と、6.67ヘクタール以上を持つ農家である。この区別により、農場の規模が農業パフォーマンスに与える影響を評価できる。分析の結果、日本と中国の両方の大規模農家は、ヘクタール当たりの収量が高いことが明らかになった。しかし、日本の大規模農家は優れたコスト管理と収益性を示す一方で、中国の大規模農家は労働や土地における単位面積当たりのコストが高く、しばしば財政的損失を抱えている。同様に、両国の小規模農家も損失を出す傾向がある。コスト構造の比較分析により、日本においては労働費用と資本コストが米の生産費用の重要な割合を占めているのに対し、中国では土地コストがより顕著であることが示された。これらの発見は、両国の米農業の経済的な構造において、機械化、労働費用、土地コストの重要な役割を強調している。本研究は、技術革新、コスト削減、農場の規模効率に焦点を当てた政策介入が、日本と中国の米農業の収益性と持続可能性を向上させる可能性があることを示唆している。本研究は、米生産における経済的および構造的課題の理解に貢献し、両国の農業政策改善に関する洞察を提供する。

キーワード: 農家経済; 規模の経済; 費用便益分析
JEL 分類: O12; Q12; Q18